

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
教育実践「ブラジルパラアスリートとの交流」 報告書

2019(令和元)年7月24日(水)、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」オリパラ教育事業のひとつとして、ブラジルパラ柔道選手との交流会が行われました。これは、浜松市のブラジルホストタウン事業と連携して開催されたもので、当日は教育推進校(萩丘小、雄踏小、佐鳴台小)の児童・生徒のほか、浜松市内の中学生高校生、保護者を含め114名の参加がありました。内容は以下のとおりです。

**【開催概要】**

日時: 2019(令和元)年7月24日(水) 14:30～17:00  
会場: THE HAMANAKO ホテル および 雄踏総合体育館  
内容: [第1部] 14:30～15:40 (株)明治主催 ブラジル教室  
[第2部] 16:10～17:00 パラリンピック柔道選手練習見学会

**【報告事項】**

本事業は、7月21日～27日、ブラジルパラリンピック柔道選手団が浜松市での合宿に伴い、浜松市スポーツ振興課との連携により実現しました。教育推進校に参加を呼びかけ、希望者を募り実施しました。

第1部の(株)明治主催のブラジル教室では、パラリンピック柔道選手とともに、ブラジルの国や文化、ブラジルと日本との関係について学びました。移住した日本人がブラジルで栽培し始めたという「カカオ」についても学び、カカオの試飲とブラジルカカオで作ったチョコレートの試食を行いました。



初めて飲んだカカオは白くドロツとしていて甘酸っぱく、チョコレートとは違った味に子どもたちも驚いていました。

第2部は、会場を雄踏総合体育館に移し、パラリンピック柔道の練習風景を見学しました。対戦相手は地元高校生の柔道部員です。練習の合間には、パラリンピック柔道選手と見学をしていた児童・生徒との質問タイムを設け、子どもたちの素朴な質問に



選手たちは楽しそうに答えていました。

「戦っていることで怖いことはありますか?」  
という子どもの質問には「負けること」と答え、  
「目が見えないのにどうやって試合をするのか」という率直な質問にも、「悲惨な事故にあい目が見えなくなった。そんなとき柔道を教えてもらい、どうやって取り組むか先生に叩き込まれた」と丁寧に笑顔で答えくれました。子どもたちの積極的な質問に選手の一人は「答えるのが

楽しくなってきた」と話すほど、和やかな時間が過ぎました。

今回、ここで子どもたちが出会った選手が、東京パラリンピックで活躍してくれることを楽しみにしています。



#### [参加内訳]

教育推進校： 萩丘小 5名 佐鳴台小 14名 雄踏小 42名  
教育推進校以外： 泉小 3名 雄踏中バレー部 31名 聖星高剣道部 7名  
雄踏地区にお住いの皆さん 12名 計 114名